

アラビア語 -ī, -ū のサナア方言における 対応形について

— いわゆる “pausal diphthongization” との関係 —

佐藤 道雄

1. はじめに

イエメン共和国の首都サナアで用いられているアラビア語の口語方言においては、現代標準アラビア語 (Modern Standard Arabic, 以下 MSA) やイエメン以外の多くの口語方言で -ū や -ī で終わる語 (動詞の定形や人称代名詞接尾形一人称単数など) が、音韻論的にはそれぞれ -uw および -iy で終わっている。このことを、該当する語とそれに後続する語とのつながり方、また、いわゆる “pausal diphthongization” という現象から考察する。

2. アラビア語での語末長母音の短母音化とサナア方言でのその対応形

MSA や多くの口語方言においては、長母音で終わる語の後に子音の連続で始まる語 (いわゆる hamzat alwaṣl で始まる語) が続く場合に、2 語の間に生じる閉音節が長母音で構成されることを回避するため、初めの語の語末は短母音となる。

MSA における語末長母音の短母音化の例

- | | | | | | | |
|-----|-------------------|---|----------------|---|---------------------------------|------------------|
| (1) | fī
(前置詞)~において | + | lmāḍī
過去 | → | filmāḍī
過去において | (* fīlmāḍī) |
| (2) | bāḥaṭū
彼らは討論した | + | l'azma
その危機 | → | bāḥaṭul'azma
彼らはその危機について討論した | (* bāḥaṭūl'azma) |

(Holes p. 49 より。ただし音転写は筆者式の方法)

語末の長母音が短くなることによって他の語形と文法的に同一の形になるような場合の一部の例外をのぞき (Holes p. 50 参照)、この音韻論的な規則は、語彙や文法形式の違いにかかわらず適用される。

しかしながら、サナア方言においては次のような語の連続が普通に見られる。次の例で

は矢印の左側が実際に現れた2語の連続する形、矢印の右側が筆者による分析で、検討の余地がある。また、かっこ内にアステリスクをともなって提示した形は、サナア方言においては2語の連続が上記の例(1)・(2)のようにならないことを示している。

- | | | | |
|---|---|--|----------------------------------|
| (3) bit [°] āniyalbagarah
お前(女)はその雌牛で苦労する | ← | ? bit [°] ānī + albagarah
お前(女)は苦労する その雌牛 | (* bit [°] ānilbagarah) |
| (4) jurriyalgahwah
そのコーヒーをお寄せなさい | ← | ? jurrī + algahwah
(女性単数に対して)引け そのコーヒー | (* jurrilgahwah) |
| (5) tirabbiyal [°] iyāl
彼女は子供達を育てる | ← | ? tirabbī + al [°] iyāl
彼女は育てる その子供達 | (* tirabbil [°] iyāl) |
| (6) wa [°] jabniyalḥarj
そしてその製品は私を喜ばせた | ← | ? w-a [°] jab-nī + alḥarj
そして—喜ばせた—私を その製品 | (* wa [°] jabnilḥarj) |
| (7) wajiduwarra [°] āyah
彼らはその保護を見付けた | ← | ? wajidū + arra [°] āyah
彼らは見付けた その保護 | (* wajidurra [°] āyah) |
| (8) biyguluwattujjār
その商人たちは言っている | ← | ? biygulū + attujjār
彼らは言っている その商人たち | (* biyguluttujjār) |
| (9) ḥaddiduwannās
その人々を統制せよ | ← | ? ḥaddidū + annās
(男性複数に対して)統制せよ その人々 | (* ḥaddidunnās) |

まず上記の例それぞれの矢印の右側の第1語を文法的に分析すると次のようになる。

- | | |
|---------------------------|---------------------|
| (3) 動詞未完了形二人称女性単数 | (4) 動詞命令形女性単数 |
| (5) 第3語根Y動詞の未完了形(三人称女性単数) | (6) 人称代名詞接尾形一人称単数対格 |
| (7) 動詞完了形三人称男性複数 | (8) 動詞未完了形三人称男性複数 |
| (9) 動詞命令形男性複数 | |

(3)の語尾のMSAでの対応形は -ī ではなく -īna だが、それ以外はMSAと同じ語尾の形をしている。

また第2語は、例(1)・(2)と同じく、(3)～(9)においても全て定冠詞で始まっている。ただし、サナア方言の定冠詞は位置にかかわらず、原則として a- で始まる。¹⁾

上記の例においては2語の間に -y- または -w- が介入しているかのように見える(下線部)が、これらが呼びかけの ya や接続詞の wa- でないことはテキストの文脈から明らかである。では、この -y- や -w- は何であろうか。これについて2通りの解釈が考えられる。

a. サナア方言には、ī と a の衝突を避けるために y が介入し、ū と a の衝突を避けるために w が介入するという、独自の音韻論的な規則がある。

b. MSAにおいて-ī や-ū で終わるような語は、サナア方言においては、それぞれ -iy, -uw で終わっている。

a と b のどちらが説明としてより妥当であるかはここまででは判断できない。そこで、“pausaldiphthongization” として既に知られているサナア方言の特徴が、更なる考察のヒントとなりそうである。

3. “Pausal diphthongization” (「休止での二重母音化」)

Jastrow(1984) はサナア方言に見られる現象として “Pausaldiphthongierung” を次のように説明している。

Pausaldiphthongierung は、長い -ī または -ū で終わる語尾、つまり主には動詞の活用形（完了では 3. pl. m. -ū, 2. sg. f. -tī, 2. pl. m. -tū; 未完了では 3. と 2. pl. m. -ū, 2. sg. f. -ī; 命令では sg. f. -ī, pl. m. -ū）のところで現れる。休止の位置ではどちらの語末の母音も二重母音化する。つまり -iy, -ey それに -uw, -ow となる。例（# は後続する接続を、すなわち我々のケースでは休止の位置を示す）: kulī → kuley#「食べよ(f.)」、kulū → kulow#「食べよ(pl. m.)」、turgudī → turgudey#「あなた(f.)は寝る」、ragadtū → ragadtow#「あなたたち(pl. m.)は寝た」、ragadtī → ragadtey#「あなた(f.)は寝た」。(休止の位置ではないところの)環境では、二重母音化されない母音が現れる。同様に二重母音化されない母音は、語末の位置ではなくなったところ、例えば 否定小辞 -š の接尾したところで現れる。例: ragadtow に対して mā ragadtūš「あなた達(m.)は寝なかった」、ragadtey に対して mā ragadtīš「あなた(f.)は寝なかった」

(p. 294)

上記 Jastrow の説明では、(もともと)長い -ī と -ū とがあり、それが休止の前に来ることによって二重母音化することになっている。この説明の中でも、また同じ論文中的他の部分でも、本稿において問題になっている、母音で始まる他の語（ここでは定冠詞）の前に「長い-ī や-ū」が来た場合にどうなるのかということについての言及は見られない。ただ、Jastrow の上記の説明から、-iy (～-ey) や -uw (～-ow) は休止の直前でも

起こり得ることがわかる。本来は長い $-ī$ と $-ū$ とが位置によって変化を受けるという点では、前節の a. 説（音韻論的な規則あり）と矛盾しない説明である。

次に、Qafisheh(1992) は "pausal diphthongization" を次のように説明している。

Pausal diphthongization も、サナアのアラビア語の独特な特徴である。多くの他のアラビア語方言において $-i$ / もしくは $-u$ / で終わる動詞の形式は、サナアのアラビア語ではそれぞれ二重母音 $-iy/ \sim -ey/$ もしくは $-uw/ \sim -ow/$ で終わる。

$-iy/$ や $-uw/$ の方が $-ey/$ や $-ow/$ よりも普通に聞かれる。 $-i/$ は次の動詞の形の中に現れる：

1. 完了相および未完了相の二人称女性単数。
2. 命令の二人称女性単数。
3. 最後が $-i/$ で終わる第三語根弱動詞の完了の三人称男性単数。
4. 完了時制が $-a/$ で終わる第三語根弱動詞の未完了の三人称男性単数。

$-u/$ は次の動詞の形の中に現れる：

1. 完了時制および未完了時制の二人称および三人称男性複数。
2. 命令の二人称男性複数。

katabti	→	katabtiy ~ katabtey	あなた (f. s.) は書いた
tuktubi	→	tuktubiy ~ tuktubey	あなた (f. s.) は書く
'uktubi	→	'uktubiy ~ 'uktubey	書け (f. s.)
bigi	→	bigiy ~ bigey	彼はとどまった
yisgi	→	yisgiy ~ yisgey	彼は灌漑する
katabtu	→	katabtuw ~ katabtow	あなた (m. p.) は書いた
tuktubu	→	tuktubuw ~ tuktubow	あなた (m. p.) は書く
katabu	→	katabuw ~ katabow	彼らは書いた
yuktubu	→	yuktubuw ~ yuktubow	彼らは書く
'uktubu	→	'uktubuw ~ 'uktubow	書け (m. p.)

頻度は低いながらも、pausal diphthongization は $-i/$ または $-u/$ で終わる語においても聞かれる。

'ahli	→	'ahliy ~ 'ahley	わが民
naşraani	→	naşraaniy ~ naşraaney	キリスト教徒
kitli	→	kitliy ~ kitley	やかん

mista [°] fi	→	mista [°] fiy ~ mista [°] fey	救われた(act.. part.)
'antu	→	'antu ^w ~ 'antow	あなたがた(m.)
hu	→	hu ^w ~ how	彼

母音 /-i/ や /-u/ が語末ではない環境では、二重母音化は起こらない。

maa xazzanuuš	彼らはカートを噛まなかった
maa xazzantiiš	あなた(f. s.)はカートを噛まなかった
'akaltuuha	あなたがた(m.)はそれを食べた
'addaytuuni	あなたがた(m.)は私にくれた
xuđiiha	それをもって行きなさい(f. s.)

(pp. 31-32)

これは “pausal diphthongization” についての説明でありながら、その実、休止については全く触れられていない。説明の内容から推測できるのは、他の方言における語末の短母音 -i, -u はサナア方言においてはそれぞれ -iy ~ -ey, -uw ~ -ow に対応する（位置がある?）ということである。

また、Qafisheh は同じ文法書の他の部分で動詞完了形の活用語尾と未完了形の活用パターンを次のように示している。以下の表の下線部（筆者による）は前節の b. 説と一致する。

	完了形語尾	未完了形パターン
三人称男性	φ	yu-
単 三人称女性	-at	tu-
二人称男性	-t	tu-
数 二人称女性	-ti <u>y</u>	tu- <u>iy</u>
一人称共性	-t	'a-
三人称男性	- <u>uw</u>	yu- <u>uw</u>
複 三人称女性	-ayn	yu-ayn
二人称男性	- <u>tuw</u>	tu- <u>uw</u>
数 二人称女性	-tayn	tu-ayn
一人称共性	-na	nu-

(pp. 59, 65 より抜粋・並べ換え)

以上の Jastrow と Qafisheh の記述をそれぞれまとめると、以下のようになる。

Jastrow: もともと語末が -ī, -ū の語は休止の前では -iy ~ -ey, -uw ~ -ow となる。

Qafisheh: 他のアラビア語方言で -i, -u で終わる語はサナア方言では -iy ~ -ey, -uw ~ -ow で終わる。

(但し、Qafisheh の巻末のテキストを見ると、どういう訳か該当する語は -i, -u で記録されているものがほとんどで、むしろ -iy, -uw は少ない。使い分けの基準に関してはどこにも説明がなく、これでは本文の音韻論・文法の説明は実際のテキストに基づいたものではないと認めているようなものである。筆者が自分の資料に基づいて前節で述べた例(3)~(9)のような連続は Qafisheh のテキストには全く見られない。例えば292頁8行目 gaamu n-naas「人々は立った」の gaamu は上記の活用語尾の説明が正しければ gaamuw となるべきで、更に、筆者(佐藤)の観察が正しければこのような連鎖は /gamuwannās/ という形で実現されることが最も多い。)

4. 結論

第2節と第3節とをまとめると次のようになる。

- ① サナア方言では「-ī や -ū で終わる語」は、-a で始まる語（ここでは定冠詞）が後続すると、それぞれ後ろに -y-, -w- の音が介入し、-iya-, -uwa- という連続になる。(第2節)
- ② サナア方言において「-ī や -ū で終わる語」は、(少なくとも) 休止の前ではそれぞれ -iy ~ -ey, -uw ~ -ow となる。(第3節)

では、この「-ī や -ū で終わる語」がそのまま -ī や -ū として現れるのはどんな場合だろうか。例えば子音で始まる語の前に該当する語が来る場合を見てみよう。

[jaddatīsa°īdah] ← jaddatī + sa°īdah
私の祖母サイダ(人名) 私の祖母 サイダ

[bīṣayyiḥū°alābadalak] ← bīṣayyiḥū + °alābadal-ak
彼らはあなたの代わりに叫んでいる 彼らは叫んでいる ~の代わりに -あなた

上の例の下線部 -ī-, -ū- が音韻論的に /-ī-/、/-ū-/ なのか、それとも /-iy-/、/-uw-/

なのかは判断する基準がないように思われる。つまりサナア方言においては「-ī や -ū で終わる語」は、もともと音韻論的には -iy, -uw で終わると言った方が適切なことこそあれ、-ī, -ū で終わるという説明の方がより適切だということはなさそうだ。すなわち、「MSAにおいて -ī, -ū で終わる語、つまりサナア方言において -iy, -uw で終わる語」は、ごく自然に母音の前では -y, -w をともなって現れ、休止の前では -y, -w をともなって現れるということになる。

したがって第3節で述べた “pausal diphthongization” は「休止での（音韻論的な）単母音の二重母音化」ではなく、むしろ「休止での二重母音の（音声学的な）顕在化」と言った方が正しい。

よって(3)～(9)の例は以下のような書き換えが必要になる。

(3)' bit°āniy + albagarah → bit°āniyalbagarah
お前(女)は苦勞する その雌牛 お前はその雌牛で苦勞する

(4)' jurriy + algahwah → jurriyalgahwah
(女性単数に対して)引け そのコーヒー そのコーヒーをお寄せなさい

(5)' tirabbiy + al°iyāl → tirabbiyal°iyāl
彼女は育てる その子供達 彼女はその子供達を育てる

(6)' w-a°jab-niy + alḥarj → wa°jabniyalḥarj
そして—喜ばせた—私を その製品 そしてその製品は私を喜ばせた

(7)' wajiduw + arra°āyah → wajiduarra°āyah/
彼らは見付けた その保護 彼らはその保護を見付けた

(8)' biyguluw + attujjār → biyguluwattujjār
彼らは言っている その商人たち その商人たちは言っている

(9)' ḥaddiduw + annās → ḥaddiduwannās
(男性複数に対して)統制せよ その人々 その人々を統制せよ

-iy + a- → -iya- ((3)'～(6)') (矢印の右側と左側の間には)
-uw + a- → -uwa- ((7)'～(9)') (音韻論的なプロセスはない。)

ただし、ここで示した分析によるパターンに従ったような2語の連続のみが実現形式としてテキストに現れるわけではない。例えば -iy で終わる語の -y が、母音で始まる語の前で脱落している例があったので、以下に示しておく。

(10) bitgalligiy + albāb → bitgalligilbāb
お前(女)は開める そのドア お前はそのドアを開める

(11) a°jaban - niy + azzinīn → a°jabannizzinīn
喜ばせた(女・複数) 私を それらの服 それらの服は私を喜ばせた

また、本原稿で対象としたのは他の語の前にも休止の前にも現れ得る語（形態素）だが、前置詞のように休止の前に現れることのない語は、サナア方言においてもMSA同様の変化を被ることもここに付け加えておく。

MSA (例(1))

fī + lmāḍī → filmāḍī

(前置詞) 過去(定) 過去において

サナア方言

fī + albayt → filbayt (*fiyalbayt)

(前置詞) 家(定) 家において

注

本稿は1995年9月9日の西日本言語学会第25回講演・研究発表会にて行った発表の原稿を書き直したものである。用いられている例はイエメン共和国放送ラジオで毎日放送されているドラマ 'mus'id wamus'idah' の録音からの引用である。

音転写は慣例に従った。ただし、Qafishehと Jastrow からの引用・翻訳の部分はオリジナルの音転写をそのまま用いてある。

1) 定冠詞の異形態について

MSAにおいては定冠詞 {l-} は2つの基準によってその形を変える。まず、j 以外の歯音や歯茎音で始まる語に付く際には定冠詞はその子音に同化し、それ以外の語に付く際には定冠詞は l- となる。また、定冠詞は休止の後では al- となり、他の語の後では l- となる。ただし、前の語が子音で終わる場合は、原則としてその語と定冠詞の間に母音 -i- が介入する。表で例示すると次のようになる。

	歯音・歯茎音以外の前および j の前	歯音・歯茎音の前
休 止 の 後	# l + kitāb → <u>al</u> kitāb (定冠詞) 本 その本	# l + ṣahn → <u>aṣṣ</u> ahn (定冠詞) 皿 その皿
母音で終わる他の語の後	bi°tu + l + kitāb 私は売った (定冠詞) 本 → bi°tu <u>l</u> kitāb 私はその本を売った	bi°tu + l + ṣahn 私は売った (定冠詞) 皿 → bi°tu <u>ṣṣ</u> ahn 私はその皿を売った
子音で終わる他の語の後	bā°at + l + kitāb 彼女は売った (定冠詞) 本 → bā°at <u>il</u> kitāb 彼女はその本を売った	bā°at + l + ṣahn 彼女は売った (定冠詞) 皿 → bā°at <u>iṣṣ</u> ahn 彼女はその皿を売った

一方サナア方言においては、位置にかかわらず、定冠詞は a- で始まっている。

	歯音・歯茎音以外の前および j の前	歯音・歯茎音の前
休止の後	algarār ← # al + garār その決定 (定冠詞) 決定	arraḥmah ← # al + raḥmah その慈悲 (定冠詞) 慈悲
子音で終わる他の語の後	yugūlalmatal ことわざは言う ← yugūl + al + matal 言う (定冠詞) ことわざ	albaytattāniy その2番目の家 ← albayt + al + tāniy その家 (定冠詞) 2番目の

参考文献

- Gleason, H. A. An introduction to descriptive linguistics, revised edition, Holt, Rinehart and Winston, 1961
- Holes, C. Modern Arabic--Structures, Functions and Varieties, Longman, 1995
- Jastrow, O. "Zur Phonologie und Phonetik des Šanʿanischen" 289-304 in eds. Kopp, H. and G. Schweizer Jemen-Studien vol.1 Entwicklungsprozesse in der Arabischen Republik Jemen, Wiesbaden, 1984
- Lass, R. Phonology, Cambridge, 1984
- Matthews, P. H. Morphology, Cambridge, 1974
- Qafisheh, H. A. Yemeni Arabic reference grammar, Kensington, 1992